

新地域ビジョンの検討状況

2021.2.22 ビジョン課
(長期ビジョン審議会資料)

- 大都市から多自然地域まで、多様な兵庫を織り成す9つの地域に新地域ビジョン検討委員会を設置。各地の特性を活かしたユニークな地域づくりの方向性の提示をめざす
- 検討にあたっては、県民との様々な意見交換の場を設定し、地域の夢や希望を集めながら、兵庫ならではの参画と協働によるビジョンづくりを展開

1 新地域ビジョン検討委員会

○ 各地域 1～7回

地域ビジョン委員長、地域のキーパーソン、有識者、市町職員など140人が参画

- ・新地域ビジョンの策定主体
- ・地域の資源や課題の調査、新地域ビジョン案の起草、公開の討議の場の企画運営等を実施

2 地域デザイン会議

○ 各地域 3～8回 (今年度予定含む) 県民や県にゆかりの方々約600人が参画

- ・県民有志が討議を重ねて将来の地域デザインを描くワークショップ
- ・県民が感じている地域課題、県民が望む生き方や地域の将来像を抽出し、検討委員会での骨子案策定の議論につなげる。

3 ビジョンを語る会

○ 各地域 4～12回 地域の様々な団体や地元有志グループなど約1,800人が参画

- ・残したい、受け継いでいきたいという地域の魅力や、これだけ変えなければならぬと思う地域の課題、従来の発想にないワクワクする未来など、県民それぞれのなりたい未来について、車座形式で語り合う。

4 その他

(1) 地域未来フォーラム

○ 各地域 2～3月に1回 ※ 緊急事態宣言を踏まえ5地域で延期予定

- ・広く一般県民を集めたフォーラムを地域夢会議として開催
- ・全県版の将来構想試案や新地域ビジョンの検討状況を発信し、参画と協働のビジョンづくりに向けた機運醸成と意見交換を行う。

(2) ヒアリング調査

○ 各地域 随時実施 地域のキーパーソン、先進的な活動をしている企業・団体等

- ・地域のキーパーソン、事業者・地域団体等へのヒアリング調査を通じて、新地域ビジョンのキーワード抽出や、骨子案等のブラッシュアップを実施。新地域ビジョン検討委員会や、ビジョンを語る会、地域デザイン会議での議論にもつなげる。

新地域ビジョン検討委員会

1 委員 ◎委員長 ○副委員長

	氏名	役職等		氏名	役職等
1	◎星 敦士	甲南大学文学部教授	8	飛田 敦子	コミュニティ・ポートセンター神戸事務局長
2	○乾 美紀	兵庫県立大学環境人間学部教授	9	辻 幸志	こうべユースネット理事長
3	井上 哲	第10期神戸地域ビジョン委員長	10	児玉 充弘	JA兵庫六甲神戸営農統括ゼネラルマネージャー
4	岩佐光一朗	神戸市自治会連絡協議会会長	11	関口 幸明	神戸商工会議所理事・地域政策部長
5	森田 祐子	神戸市婦人団体協議会副会長	12	永吉 一郎	㈱神戸デジタル・ラボ代表取締役
6	梅澤 章	神戸市企画調整局政策調査担当課長	13	渡辺 元樹	神戸観光局観光部長
7	宮定 章	まち・コミュニケーション代表理事	14	徳永 恭子	㈱神戸新聞社編集局報道専任部長

2 開催実績

○ 第1回検討委員会 8/4 (火)

[論点] 神戸地域の現状と課題、県民意識の推移、人口推計、ビジョンで重視すべき観点等

地域デザイン会議

1 メンバー・検討経過

- 神戸在住・在学の学生 10名と神戸で先進的な取組を展開する企業人・起業家 11名
- 学生・企業人の各グループ会議と合同会議全6回開催(予定)。3月に提言を取りまとめる

2 提言の3つの方向性(3月取りまとめ予定)

(1) 高まる暮らしの質

最先端の文化や産業を発信する都市部と豊かな自然が広がる農村部が

シームレスにつながり、多様な暮らし方を実現するモデル地域に

[問題意識]

- ・ 実際よりも都市部と田園部の距離を感じる。"神戸"が都市だけを指すのではない姿。物理的な距離を意識しないで済むような関係になってほしい
- ・ セカンドハウスやリモートワークをしながらの田舎暮らしなど、色んなライフスタイルを提案できる

(2) みなぎる未来への活力

既にある人材力・産業力・人のつながりを磨き、人口減少に負けない活力ある神戸地域を実現

[問題意識]

- ・ 神戸に住みたいという人は多い。ブランド力がある。さらに広がるポテンシャルを持っている
- ・ 阪神・淡路大震災で培った温かい人のつながり。子育てや介護をつながりで支える神戸を伸ばす
- ・ 神戸には若いクリエイターが集まってきている。文化や芸術で新しい価値を生む力がある
- ・ ハイレベルな産学官交流の基盤が神戸にはある。今後その環境がより生かせる時代になる
- ・ 神戸の農業は魅力。子供たちが農業に誇りを持つきっかけづくりが2050年につながっていく

(3) 広がる交流

新しいものを受け入れ独自の文化を発展させてきた神戸のポテンシャルを受け継ぎ

さらに新しい刺激を取り入れながら、内外との垣根の低い、開放性の高い地域を実現

[問題意識]

- ・ 様々な文化や人の多様性を認め合いながら、誰もが暮らしやすい町にしたい
- ・ 神戸開港以来の歴史文化や居留地など上質なまちのイメージは交流を活性化する大きな強み
- ・ 小さくても存在感のある神戸らしいお店にスポットを当てたまちづくりで、神戸のまちの雰囲気をもっと高められる

1 開催実績：4回 50人参加

地域	日時	場所	対象者	日時	場所	対象者
神戸	08/28	神戸市	デザイン会議メンバー	10/06	神戸市	神戸市小売市場連合会
4回	09/02	神戸市	青年農業士等	10/28	神戸市	若手起業家等

※ この他に区ごとの県政懇話会でもビジョンに関する意見交換を実施（7/14～8/31、計9回）

2 意見紹介

（若者が憧れるお洒落なまちに）

- ・神戸の好きなのところは、少し路地に入れば、玄人好みのお洒落なお店がたくさんあること。新しいまちづくりでも、この雰囲気さをさらに広げていけば、住む人の愛着や誇り、来る人の満足度も高まっていくのでは。
- ・まち全体として景観に一体感があって、お洒落なお店が並ぶ街並みをつくりたい。若者が憧れる神戸にぴったり。

（よそ者が入ってきやすいまちに）

- ・神戸・長田は、外から来て深く地域で活動している人多い。多世代・多文化。ちょうどいい距離感でほっといてくれる。ある意味で自己中心的に「こんなまちにしたい」にチャレンジできる雰囲気が自然にデザインされているのでは。

（クリエイターが集まるまちに）

- ・神戸はツーリズム資源も多い。東京の広告代理店じゃないと効果的な発信が出来なかったが、今は地元クリエイターで上質なPRができる。神戸へはクリエイターの移住が進んでいる。そうした人とのつながりが新しいものを生む。

（ゆとりを感じられるまちに）

- ・神戸はゲートシティ。コロナ禍に開設したオンラインサロンでは、全国から多様な生き方を追求できる兵庫・神戸への移住ニーズをたくさん聞く。子育てに迷って兵庫に移住したい人や三世帯移住を希望する人も多い。
- ・自分自身が豊かで、余裕があることが大切。社会全体のビジョンも「ゆとり」が大事ではないか。地域のことに目を向けながら、自分の豊かさも追求していきたい。

（外国人にとって魅力的なまち）

- ・外国人が多い企業に勤めているが、神戸は住環境も良く、医療産業都市など最先端の産業があることも素晴らしいと言っている。多様で多国籍なまちづくりに期待。

（都会と自然のギャップを活かすまちに）

- ・北区の自然は、都会的な神戸にとって良いギャップになる。一方で、若者の農業離れが進んでいる。後継世代はサラリーマンの方が楽だと都市部へ流出し、農業の高齢化が深刻化している。
- ・高速道路や冷蔵輸送の発達により、都市近郊という農業の強みが失われている。今は、遠方で昨日収穫された野菜が神戸に出荷されてきて、スーパーに並ぶ。価格で勝負にならず、販売先も占拠されていくということで、年々しんどくなっている。

新地域ビジョン検討委員会

1 委員 ◎委員長 ○副委員長

	氏名	役職等		氏名	役職等
1	◎赤澤 宏樹	兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授	10	山中 詩子	三田市有馬富士自然学習センター コミュニケーター
2	大平 和弘	兵庫県立大学自然・環境科学研究所講師	11	橋本 貴宗	尼崎市総合政策局政策部都市政策課長
3	川中 大輔	龍谷大学社会学部講師、シズメック 共育企画代表	12	堀越 陽子	西宮市政策局政策総括室政策推進課長
4	近藤 清人	(株)DtoD 代表取締役	13	大上 勉	芦屋市企画部政策推進課長
5	○佐久間壮仁	阪神南地域ビジョン委員会委員長	14	伊藤 公男	伊丹市総合政策部政策室主幹
6	定藤 博子	阪南大学経済学部准教授	15	二口 亮平	宝塚市企画経営部政策室政策推進課長
7	谷口 文保	神戸芸術工科大学大学院准教授	16	的場 秀樹	川西市総合政策部政策創造課長
8	○松元 一路	阪神北地域ビジョン委員会委員	17	太田 歩	三田市市長公室政策課長
9	水野 優子	武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科准教授	18	和泉 輝夫	猪名川町企画総務部企画政策課長

2 開催実績

- 第1回検討委員会 8/26 (水)
[論点] 検討の進め方、阪神地域の現状と課題、ヒアリング・アンケート調査結果 等
- 第2回検討委員会 12/24 (木)
[論点] 現行地域ビジョンの総括、骨子案イメージ (事務局たたき台)、デザイン案中間報告

地域デザイン会議

1 メンバー・検討経過

- 阪神地域に在住、または在住・在学経験のある 20代～40代社会人 20名
- 全体・個別ミーティング 全8回 (予定) テーマごとに4チームに分かれ検討

2 提言の方向性 (3月策定予定)

テーマ1 保育・教育 ～「おせっかい」がおせっかいでない地域～

[課題] 文教都市として全国から学生が集積。でも、子育てを支える仕組がなければ定住につながらない
・地域の子どもへの養育環境の充実、地域と教育機関の連携、教育ステージの垣根を越えた学びの連携など「地域の養育力」の向上を図り、地域ぐるみで子どもを育てる地域を目指す

テーマ2 多様な働き方 ～多様な働き方ができる地域～

[課題] 阪神で学んだ学生たちの多くが東京へ出て行く。東京に対抗できる働く環境づくりが必要
・SDGsのような誰もが共有できる枠組として、多様な働き方に関する独自の指標を打出す。雇用の需給を分かりやすくマッチングし、働きたいまちとして全国から注目される阪神地域をめざす

テーマ3 地域のつながり・コミュニティ ～シェアタウンとマッチングアプリのある地域～

[課題] 都会特有の近所付き合いの希薄さ。南海トラフ・感染症等のリスクを前に人のつながりが重要に
・マッチングアプリを活用し、コミュニティへの参加やつながりを簡単に実現できる新しい仕組を構築。番地や建物ごとにテーマ別のコミュニティを形成する特別地区の導入も検討

テーマ4 若い世代の定住定着・呼び込み ～暮らしと働きやすさから若い世代が集まる地域～

[課題] 北部は自然豊かな一方で不便、人口も流出。南部は便利で産業力が高い一方で憩いが少ない
・自動運転や乗り捨て型カーシェアリングなどの次世代移動システムを活用し、阪神北部と南部の一体性を強化。互いのメリットを最大限に活かし、全国から若い世代が集まる地域をめざす

1 開催実績：阪神南 8 回 162 人、阪神北 7 回 200 人 参加

地域	日時	市町	対象者	日時	市町	対象者
阪神南 8 回	08/04	尼崎市	阪神南都市型ツーム推進協議会	11/18	西宮市	西宮 JC
	10/03	尼崎市	環境活動者、若者、シニア等	11/28	西宮市	地域活動団体所属 大学生
	11/01	芦屋市	こくさいひろば芦屋 (外国人)	12/14	西宮市	西宮商工会議所
	11/17	尼崎市	尼崎商工会議所	12/16	尼崎市	尼崎経営者協会
阪神北 7 回	08/31	三田市	こみんか学生拠点	11/05	川西市	川西商工会青年部
	09/16	伊丹市	伊丹経済交友会	11/20	三田市	三田市商工会
	10/14	三田市	区自治会連合会役員会	12/25	宝塚市	シニアカレッジ 1 年生
	10/20	宝塚市	宝塚商工会議所青年部例会			-

2 意見紹介

(大阪湾ベイエリアの戦略的な開発)

- ・かつて阪神地区の港は灘の酒を全国に出荷する交易の要衝。今後、大阪湾ベイエリアは万博開催や I R の誘致など大きな開発案件も目白押し。関空、淡路、阪神間など広域での開発を戦略的に展開できれば、阪神地域は有数の産業・観光都市として再生するのではないか。

(文教都市 芸術文化をビジョンの柱に)

- ・阪神地域は住みたい街に選ばれる文教都市。その魅力を高めている要素の一つは、多くの大学の立地と、競争力の高い起業などの知的資源。もう一つは、モダニズム文化に代表される芸術文化資源。特に芸術文化センターの建設により、地域の文化の香りが高まった。芸術は街の魅力に大きく寄与する。ぜひ芸術文化振興をビジョンの柱にしてほしい。

(文化は不要不急ではない生活必需品)

- ・兵庫には五国それぞれの文化に力がある。阪神地区と灘五郷が日本遺産に選ばれたが、そのストーリーに価値が生まれる。ストーリーが人と経済を発展させていく。文化は決して不要不急ではない。幸せホルモンが分泌される生活必需品だと思う。

(自然が京都・大阪にない潜在能力)

- ・阪神北部は資源がないと思われがちだが、人を惹きつけるポテンシャルは大きい。例えば、田んぼを一面見渡せるようなレストランや、森の中のカフェなど、大阪や京都に出来ない強いコンテンツを創れる。阪神北部は高速道路の結節点だが、素晴らしい自然がある。

(外国人との交流は人生を豊かにする)

- ・日本人も世界を知ることによって人生が豊かになる。阪神地域は外国に行かなくても、外国を感じられるし、良い経験を与えてもらえる。日本人はそうした人生を変えるようなチャンスを活かさきれていない。

(地域を元気にする若い力の活用と人材の育成)

- ・若者が意思決定段階から、まちづくりに加わることは地域の活力に大きなインパクト。課題が山積する地域で力を発揮してくれる。

新地域ビジョン検討委員会

1 委員 ◎委員長 ○副委員長

	氏名	役職等		氏名	役職等
1	◎田端 和彦	兵庫大学副学長	8	森岡 計民	明石市政策局 SDGs 推進室課長
2	○瀧本 眞一	兵庫大学名誉教授	9	竹中 重夫	加古川市企画部政策企画課長
3	和田真理子	兵庫県立大学准教授	10	前川 吉也	高砂市企画総務部経営企画室主幹
4	相川 康子	NPO 政策研究所専務理事	11	井上 勝詞	稲美町経営政策部部長
5	大川 保	第10期東播磨地域ビジョン委員	12	松本 弘毅	播磨町企画グループ統括
6	西本 祐子	第10期東播磨地域ビジョン委員	13	富木 攻	ビジョン委員OB
7	小林 大輔	第10期東播磨地域ビジョン委員	14	畠山 恵子	ビジョン委員OB

2 開催実績

- 第1回検討委員会 6/17 (水)
[論点] 新ビジョンの概要、ビジョンの実現状況、展望年次について 等
- 第2回検討委員会 8/18 (火)
[論点] 想定年次について、予測データからみる2050年の東播磨について 等
- 第3回検討委員会 10/26 (月)
[論点] 新ビジョンの描き方・進め方について、ビジョン取組検証 等
- 第4回検討委員会 12/24 (木)
[論点] 兵庫県将来構想試案(案)説明、部会の設置について 等

地域デザイン会議

1 メンバー・検討経過

- 東播磨地域にある高等学校(全5校 約310名)
- 各高校の探究授業などで調査、研究された地域の課題に対する提言発表を活用
 - ・ 県立播磨南高等学校 : 1年生(播磨のまちづくり探求授業を活用)
 - ・ 県立東播工業高等学校 : 土木科2年生
 - ・ 県立東播磨高等学校 : 特色類型1年生
 - ・ 県立加古川東高等学校 : 1・2年生(STEAM特別講座「加古川市の地域デザインを考えよう」)
 - ・ 県立農業高等学校 : 園芸科1・2年生

2 提言の方向性

テーマ1 地域の課題は地域の特性で解決

既存の魅力を活かし、新しい魅力をつくり発展

- ・ 利便性の課題を、自転車に乗りやすいなど東播磨地域の環境で解決をめざす
- ・ 東播磨にも空き家が多い。新しいビジネスとして分散型まちづくりに活かす
- ・ 既にスマートシティの実現に向け、域内が連携した意欲的な取組がスタートしている

テーマ2 子育てできるまちは安心できるまち

地域全体で子育て世代を支援

- ・ 地域の子育てへの関心は高い。各世代が安心して暮らせる場所になるため、既存の組織を活用し地域が一体となった子育てができる環境をめざす。
- ・ お祭りなど地域に根付いた住民同士の関係が強い東播磨の強みを活かしたい

テーマ3 地域を知って助け合い

年齢、性別、職業を問わず、多様で個性的な能力を持つ人々の地域参画

- ・地域を知る機会を増やし、東播磨のみんなが地域の課題解決に取り組める社会をめざしたい。情報を手に入れやすいよう工夫することで、地域の課題に関わりがない、もしくは、関心がない人々を地域活動へ参加するよう促す

ビジョンを語る会

1 開催実績：6回 92人参加

地域	日時	場所	対象者	日時	場所	対象者
東播磨 6回	09/08	高砂市	銀座商店街	09/17	加古川	農業協同組合
	09/08	高砂市	高砂商工会議所青年部	12/11	高砂市	高砂商工会議所
	09/11	加古川	30~40代 若手事業家	12/25	加古川市	地域内各商工会議所青年部

2 意見紹介

(観光資源を生かした新しい発展をめざす)

- ・東播磨は実はツーリズムのポテンシャルが高い。しかし、現状では、北前船の日本遺産登録や、工業松右衛門旧宅の再生もなかなか生かし切れていない。将来の発展に向けては、こうした地域資源をつないでさらに新しい価値を創造していく必要がある。

(受継ぐ魅力と新しい価値の創造)

- ・高砂は小さい街だが、海もあり山もある。古民家を使うなど、レトロな昭和をもう一度つくろうと取り組んでいる。
- ・テクノロジーを駆使したスマートシティをめざしながら、東播磨の海や山、ため池など豊かな自然を受継ぎ活かして、さらに魅力ある地域へと発展させていきたい。
- ・謡曲「高砂」の姿を表した高砂染は、昔から高級品で、図柄の発祥は高砂神社で、生産は姫路で行われてきた。今の姫路城の御城印のデザインも高砂染なのだが、こうしたことをPRし、高砂の商業や観光の活性化につなげられないか。

(歴史情緒ある親水空間の発展)

- ・東播磨には古来から人々に親しまれてきた親水空間がある。これをバーベキューサイトやグランピング施設、スポーツ施設など現代風に将来を見据えた再整備を行い、地域内外から人を集める資源に発展させたい。

(クリエイティブ人材の教育拠点をめざす)

- ・東播磨といえばクリエイティブ人材の教育拠点と呼ばれるようにしていきたい。教育は県民の関心も大きい。地元の高校生などにも、この地域にそういうかっこいいことをやっている人がいるという意識が根付けば、地域への誇りも高まるのではないかと。

(農地管理問題)

- ・農業の「4K問題（高齢化、後継者不足、機械の維持管理、固定資産税）」が深刻。スマート技術を積極的に導入して、若者に魅力のある農業を実現していかなければならない。

新地域ビジョン検討委員会

1 委員 ◎委員長 ○副委員長

	氏名	役職等		氏名	役職等
1	◎田中 雅和	兵庫教育大学大学院教授	10	河越 恭子	三木市国際交流協会事務局長
2	松本 剛	兵庫教育大学大学院教授	11	徳岡 和秀	西脇市都市経営部次世代創生課長
3	三宅 康成	兵庫県立大学教授	12	降松 俊基	三木市総合政策部企画政策課長
4	奥貫 麻紀	関西学院大学准教授	13	入江 一與	小野市総合政策部次長
5	山本 和樹	第10期北播磨地域ビジョン委員長	14	藤後 靖	加西市ふるさと創造部人口増政策課長
6	依藤 順子	第10期北播磨地域ビジョン副委員長	15	下岡 正裕	加東市まちづくり政策部企画政策課長
7	中野 典子	第10期北播磨地域ビジョン副委員長	16	谷尾 諭	多可町企画秘書課長
8	徳岡 武義	西脇市津万地区自治協議会長	17	○内藤 忠	第9期北播磨地域ビジョン委員長
9	真鍋 典子	社高校生活科学科主幹教諭			—

2 開催実績

- 第1回検討委員会 7/4 (土)
[論点] 検討の進め方・スケジュール、北播磨地域ビジョンアンケートの実施 等
- 第2回検討委員会 12/22 (火)
[論点] アンケート結果に対する意見交換、検討委員会起草部会の設置 等
- 第3回検討委員会 1/26 (火)
[論点] 新地域ビジョン構成に対する意見交換、地域デザイン会議実施結果報告 等

地域デザイン会議

1 メンバー・検討経過

- 北播磨在住・在勤・在学、または北播磨地域の将来像に関心のある20～40代の43名
- 全5回、テーマごとに実施

2 提言概要

(1) めざす姿

若者が戻ってきたくなる、住みたくなる、楽しくなるエキサイティングな体験型地域
交通・経済・文化・環境・人をつなぐHub機能を備えた、新しい都市コンセプトの実証地

(2) 4つの方向性

① のんびりあったかい北播磨時間が標準時

各々が自分らしく自己実現をして発信し、つながりながら北播磨の文化を創る地域
(主な意見)・自分の生き方や暮らし方を選択できる魅力的な地域にしたい
・自己実現している人が増えると、外の人を受入れる多様性や地域愛が高まる

② 共に創ろう北播磨

多様な人にとって暮らしやすい共生社会
(主な意見)・共生社会を実現するために、多様な人を受入れる意識改革が必要
・地域内でのコミュニケーション、交流機会の充実を図っていくことが大切

③ やりたいを叶えるグローバルな北播磨

子どもたちが自慢できる地域
(主な意見)・子どもたちのやりたいことが実現できる環境を創りたい
・「野外×IT×教育 (or ビジネス) ×ゲーム感覚」など、いくつかの概念を組み合わせたら、北播磨らしい魅力を創出していけるのではないかと

④ 人と自然がゆるくつながる北播磨

- 北播磨地域の山や川が育ててきた自然の恵みを受け継ぎながら、
自然から学んだ災害の脅威に備えている、自然と共につながり住み続けたいと思える地域
(主な意見)・北播磨地域の自然や農の文化は次世代へつないでいくべき地域の宝
- ・一方で多くの災害から自然の驚異を学んできた
 - ・自然が CO2 の吸収源。持続可能な社会の基盤であることの認識を深める

ビジョンを語る会

1 開催実績：12回 152人参加

地域	日時	場所	対象者	日時	場所	対象者
北播磨 12回	08/24	多可町	かみ特産品クラブのグループ	10/21	加東市	北播磨管内農業関係者
	08/24	多可町	多可町商工会(女性部)	10/21	小野市	小野商工会議所
	10/10	西脇市	西脇商工会議所青年部・青年会議所	10/21	加東市	加東市商工会青年部
	10/10	三木市	吉川町商工会	10/23	加西市	加西商工会議所
	10/10	三木市	三木商工会議所青年部	12/03	加東市	子育て支援・ママグループ
	10/14	多可町	多可町八千代区コミュニティグループ	12/17	西脇市	西脇市で活躍されている方々

2 意見紹介

(30年後の未来は山が中心)

- ・これまではポートピア博など海に向かって未来が進んでいたが、次の30年は山の中に未来が進むイメージがいい。仕事はオンラインで行えるし、南海トラフのリスクも回避できる。

(変化に対応できる子どもを育てる教育)

- ・困難に取り組む力など、学歴では分からない力の涵養を地域や学校が親と一緒に取組んでほしい。変化に強い若者を育て、そういった若者が集まるような地域にしていきたい。

(若者が主役の社会にする)

- ・30年後に幸せな社会にするためには、子ども達や若者が主役になれる社会にすることが大事。前例踏襲ではなく、古い価値観を時代に合わせてアップデートし、若い人や女性がリードする社会にしないといけない。それができない地域に子どもたちは帰ってこない。

(未来の働き方)

- ・会社に所属しない人が増えるだろう。そういう人たちを受け入れる北播磨であるべき。個人の頑張りを応援しようという空気感が大事だ。

(農業の未来)

- ・30年後も農業で北播磨の未来を築くために、農産物のブランド化と品質向上が不可欠。他の地域から入ってきた若者が生き生きと農業経営ができるようにしないといけない。

(北播磨を高齢者特区に)

- ・北播磨はちょうどいい田舎。リタイヤ組や都市部の高齢者を受け入れることで、新しい産業や事業を興し、雇用創出や優秀な外国人を呼び込むことができると思う。

(ワーケーション先としての北播磨)

- ・キャンプ場や自然を利用した施設を活用するなどしてワーケーションとしての活用ができる地域。子育てや教育、雇用環境等を整備すれば北播磨全体の活性化につながっていく。

(持続可能なスマートカントリー)

- ・30年後はさらに少子高齢化が進んでいるので、医療や買い物弱者支援を強化し、より住みやすい持続可能な地域「スマートカントリー」をめざすべき。

新地域ビジョン検討委員会

1 委員 ◎委員長 ○副委員長

	氏名	役職等		氏名	役職等
1	◎宇高 雄志	兵庫県立大学環境人間学部教授	9	吉田 利彦	福崎町企画財政課長
2	○井関 崇博	兵庫県立大学環境人間学部准教授	10	飯塚 祐樹	ファームハウス代表
3	三村 晴美	第10期地域ビジョン委員会アドバイザー	11	石田 文徳	兵庫県老人福祉事業協会顧問
4	藤本 忠義	第10期地域ビジョン委員会委員長	12	岡田 武夫	坊勢漁業協同組合代表理事組合長
5	浦上 健作	第10期地域ビジョン委員会副委員長	13	小野 康裕	播但沿線活性化協議会代表
6	宮崎 崇史	姫路市市長公室新総合計画推進室主幹	14	佐藤 慎介	佐藤精機株式会社代表取締役社長
7	藤原登志幸	神河町ひと・まち・みらい課長	15	合田 勝彦	姫路観光コンベンションビューロー常務理事
8	内藤 淳一	市川町企画政策課長			—

2 開催実績

- 第1回 検討委員会 8/27 (木)
[論点] 検討の進め方、中播磨地域の現状、ヒアリング調査によるキーワード抽出、推計人口
- 第1～2回 産業部会 11/11 (水)、1/29 (金)
[論点] 中播磨の産業政策、AI・IoT・ビッグデータ活用、次世代産業システムの再構築 等
- 第1～3回 観光交流部会 11/12 (木)、1/13 (水)、1/27 (水)
[論点] ツーリズム振興、地域資源の活用、地域コミュニティの維持・再生 等
- 第1～2回 暮らし部会 11/18 (水)、1/20 (水)
[論点] 健康づくりと医療確保、地域包括ケアシステムを取り巻く諸課題と展望 等

地域デザイン会議

1 メンバー・検討経過

- 中播磨地域に在住、または在勤・在学している10代～80代24名
- 全5回の全体ミーティングにより中播磨の魅力・課題の整理、将来像の提案を取りまとめ

2 提言の方向性 (2月中取りまとめ予定)

テーマ1 地域資源の発信 ～世界が憧れる『自己中』中播磨～

[問題意識] 中途半端な都会というコンプレックス、一方更なる田舎に比べるとチャレンジ精神が希薄。草、地酒、自然、播磨灘の魚、姫路城など世界に誇る魅力あるも、地元もよく知らない・「世界の姫路を擁する播磨の中心」「都会に近い豊かな農山漁村」「伝統と先端が融合する産業」など、各地域が魅力を明確化。もっと「自己中心的」に発信し更に磨き上げる

テーマ2 助け合うコミュニティ ～みんなで『すごいステキなお隣さん』になります！～

[問題意識] 自治会加入率が高い一方高齢化。山崎断層を持つ割に中播磨は災害が少ないという過信がある。・高齢者など困った人を地域で助け合える環境づくり、誰もが暮らしやすい地域づくり。大災害にも備え、あらゆる世代が参画できるコミュニティや交流の機会を創りあげていく

テーマ3 個性を追求できる教育 ～井の中の蛙 個性爆発中播磨～

[問題意識] 若者の中播磨への期待感が低い。将来に希望を持ってない。地域の基盤は教育。・子どもたちが個性を追求できる独自の教育で優れた才能を多数輩出。技術者、アーティスト、起業家、趣味を楽しむ人、家庭を支える人など、多様な夢や希望を追い求められる中播磨

テーマ4 魅力的な暮らし・産業 ～シビックプライドあふれる『コンパスライフ』中播磨～

[問題意識] 若者が東京や大阪、神戸に出ていく。ものづくり等地域産業の活性化が課題

- ・ものづくり等の強みを活かし魅力的な産業が生まれ続けるサイクルを創出。更に新技術を駆使して、中播磨を軸にグローバルにもローカルにも好きなように円（生き方）を描けるコンパ・スライフを実現

テーマ5 UJI ターンの促進 ～みんなのふるさと、おかえり中播磨～

[問題意識] 人口流出も祭りには多くの方が帰省する魅力。域外からも人の活力を取込む必要

- ・出ていった人も新しい人も「おかえり」と温かく受け入れる地域でありたい。伝統を受継ぎながらも、どんな人でも受け入れて、ともに豊かな地域を創っていける開放的な気質を伸ばしていく

ビジョンを語る会

1 開催実績：6回 115人参加

地域	日時	場所	対象者	日時	場所	対象者
中播磨	08/25	神河町	神河町区長会	10/04	姫路市	生活関係団体
6回	09/05	姫路市	若者、移住者、シニア等	10/12	福崎町	福崎町区長会等
	09/19	姫路市	観光交流関係者	11/03	姫路市	産業関係者

2 意見紹介

(姫路の産業を未来につなぐ)

- ・日本で皮革産業は播磨にしかない。皮革産業も素材を提供するだけでなく自分たちで商品を作って姫路ブランドを世界に発信する。世界のデザイナーが姫路に集まるような魅力的な皮づくりをめざしていきたい。
- ・漁業見学船で、魚離れの進む小学生向けに漁業の現状・魅力を発信することで、将来の漁業従事者が出てくることを期待している。

(農業のデジタル化と多様な働き方の発信)

- ・第一次産業のIターン者は必ずしも収入目当てばかりではないので、彼らの価値観を知ろうとすることも大事。
- ・第一次産業でも、新技術を最大限に取り入れ、農業や林業を組み合わせた多様な働き方を発信することで、若者等の新しい田舎暮らしを広げていきたい。

(姫路城だけじゃない新たな魅力の創出)

- ・姫路城以外におすすりできる場所を聞かれると困る。姫路城以外の観光資源をもっと磨き上げ発信することで、中播磨地域一帯での地域経済の発展につなげたい。
- ・姫路城の次の目的地に移動する際に、駅に戻りバスを調べて、バスを待っている。MssSなど新しい技術でもっと快適に中播磨地域を回遊できるようになってほしい。

(テレワーカーの集まる島へ)

- ・家島はインターネット環境があり姫路市にも近くワーケーションに最適。テレワーカーを集めるモデルとなる島にしたい。空き家活用として、二拠点居住の実態を調査しながら、移住希望者とのマッチングも行っている。

(社会との孤立を生まないつながりのある地域に)

- ・老人クラブは、居場所づくりの1つの大きな役割を果たしているが、会員の減少で機能が大きく低下している。社会とのつながりが絶たれると、認知症のリスクが高まると言われる。高齢者の孤立を生まない地域づくりが必要。

新地域ビジョン検討委員会

1 委員 ◎委員長 ○副委員長

	氏名	役職等		氏名	役職等
1	◎谷口 泰司	関西福祉大学社会福祉学部教授	9	松尾 次郎	相生市企画総務部企画広報課長
2	○田端 和彦	兵庫大学副学長	10	家氏 孝幸	たつの市企画財政部参事兼企画課長
3	井関 崇博	兵庫県立大学環境人間学部准教授	11	澁谷 晃	赤穂市市長公室政策担当課長
4	太田 尚孝	兵庫県立大学環境人間学部准教授	12	西嶋 義美	宍粟市企画総務部地域創生課長
5	長谷川尚史	京都大学フィールド科学教育研究センター准教授	13	池田 誠	太子町総務部企画政策課長
6	三宅 康成	兵庫県立大学環境人間学部教授	14	宮下 弘毅	上郡町理事兼企画政策課長
7	門田 守弘	西播磨地域ビジョン委員長	15	服部 憲靖	佐用町企画防災課長
8	久保 李佳	ひとまちあーと			-

2 開催実績

○ 第1回検討委員会 12/18 (金)

[論点] 検討の進め方、県民との意見交換等実施結果、新地域ビジョンの方向性 等

地域デザイン会議

1 メンバー・検討経過

○ 西播磨地域に在住の30代～70代 30名

○ 計5回のワークショップを通じ、西播磨の課題・魅力の整理、地域のなりたい姿を検討

2 提言の方向性 (2月取りまとめ予定)

テーマ1 歴史の継承・未来へ創造

時代を超えても歴史と文化が紡がれていく地域

- ・醤油、味噌、日本酒など豊かな食文化を受継ぐ。それを発展させる人材育成も大切
- ・日本遺産や情緒ある伝統的な街並など、古き良き西播磨の個性を守っていく

テーマ2 挑戦を受け容れるまち

「出る杭」として活躍する人々が増える地域

- ・西播磨には「出すぎた杭は打たれない」のモットーが根付く
- ・伝統を守るだけでなく、新しいものを取り入れるチャレンジも大切。時代により変化する価値観に合わせ、若者・子育て世代に魅力ある住みやすいまちをめざす

テーマ3 ほどよい田舎・誇れる田舎

西播磨に憧れる人との交流を生み出すような田舎

- ・みんなが地域のいいところを3つは言える「自慢できる田舎」をめざしたい
- ・古民家などの資源を活かして田舎暮らしへの憧れを創る。支え合いの基盤である温かい「おせっかい文化」も受け継いでいく

テーマ4 先端科学都市

加速度的に進歩する技術を実装する社会課題解決の先進地

- ・自動運転やドローン配送など、社会のデジタルトランスフォーメーションを先導する基盤がある

テーマ5 人と自然の共生圏

自然の恵みを次代に受け継ぐ、持続可能な未来

- ・作物を自ら作り時には狩猟を行い、収穫の喜びを味わう、自給自足の生活ができる
- ・豊かな自然にかこまれ、生き生きと健康で暮らせる地域にしたい

1 開催実績：12回 593人参加

地域	日時	市町	対象者	日時	市町	対象者
西播磨 12回	08/18	たつの市	龍野商工会議所青年部	11/09	太子町	太子町商工会青年部
	09/07	赤穂市	赤穂商工会議所	11/10	相生市	相生商工会議所青年部
	09/14	たつの市	たつの市商工会	11/16	上郡町	上郡町商工会
	10/01	たつの市	龍野商工会議所女性会	11/24	佐用町	佐用町商工会
	10/09	たつの市	まちづくり関係者	11/25	上郡町	兵庫県立大学附属高校・中学校
	10/27	宍粟市	宍粟市商工会	12/16	たつの市	高齢者文化大学の講座

2 意見紹介

(相乗効果で地域を盛り上げたい)

- ・龍野は都会に近い魅力的な田舎。景観条例でガードレールをベージュにしたり、しっかりとまちづくりができています。30年後もこの良さを残していければいい。
- ・龍野は「レザー」「そうめん」「しょうゆ」の3つの日本一がある。この産業と町並みを掛け合わせれば、さらに地域を盛り上げることができる。
- ・ツーリズムでは瀬戸内DMOや岡山や広島などと連携し、広域的な魅力を創出していくことで、外国人観光客にもたくさん来てほしい。

(伝統産業に若者の新たな視点を)

- ・若者が職人になりたがらない。伝統産業も新しい意見を入れていかなければならない。
- ・西播磨の伝統産業はまだまだ認知されていない。また、技術や感性をもった若者が食べていけないという話も聞く。多くの若者が活躍する西播磨地域をめざさなければならない。

(テクノロジーを駆使した田舎ぐらし環境の整備)

- ・コロナ禍でテクノロジーの活用により田舎に居ながらにして都会で働けることがわかった。新しい人を呼び込むために住環境の整備が求められている。
- ・周りは限界集落。コンパクトシティも選択肢だが、代々の土地に住み続けたい人は多い。集約しなくても生活できる田舎暮らしのモデルとなるよう、テレワークや遠隔医療等、通信インフラ整備を全国に先駆けてできればいい。

(資源のリノベーションで活力を呼び込む)

- ・土地が安く、空き家も多くあり都会からの移住基盤はある。問題は現所有者にかかるコストが高いこと。うまく流通・リノベーションできる仕組みができれば可能性は大きく広がる。

(若い人が魅力を感じるまちづくり)

- ・消滅しそうな小規模集落が増えており、土地やコミュニティを維持していくために、残った人の労力が大変になっている。
- ・10年後は自治会等の役員のみ手が誰もいなくなる。転出者の若年化が進んでいて、小学、中学で出てしまう人も多い。都会に出て行った子どもが帰ってきたくなくなるような魅力ある田舎づくりをする必要がある。
- ・田舎は閉鎖的で外部の者を受入れない風潮がある。地域で変えていかなければならない。

新地域ビジョン検討委員会

1 委員 ◎委員長 ○副委員長

	氏名	役職等		氏名	役職等
1	井内 善臣	兵庫県立大学名誉教授	10	田村 亘	養父市経営企画部経営政策課長
2	◎草郷 孝好	関西大学社会学部教授	11	松本 昭浩	朝来市市長公室総合政策課長
3	菊池 義浩	兵庫県立大学大学院講師	12	水垣 清和	香美町企画課長
4	木築 基弘	第10期但馬夢テーブル委員会委員長	13	岩垣 廣一	新温泉町企画課長
5	西賀 真紀	第10期但馬夢テーブル委員会委員	14	高谷美智子	(株)ピーナッツ代表取締役
6	関 綾乃	第10期但馬夢テーブル委員会委員	15	柴崎 明郎	(株)トキワ代表取締役
7	○太田 博章	第8期但馬夢テーブル委員会委員長	16	大森 友香	Qumクリエイティブ代表
8	山縣奈緒子	与布土地域自治協議会はぐくみの郷部会長	17	松岡 千都	ジオsens but馬因幡探求クラブ副代表
9	井上 靖彦	豊岡市政策調整部政策調整課長			—

2 開催実績

- 第1回検討委員会 6/25 (木)
[論点] 検討の進め方、但馬地域の現状 等
- 第2回検討委員会 8/5 (水)
[論点] 新地域ビジョンで検討・重視すべき点、ワークショップ・ヒアリングの進め方 等
- 第3回検討委員会 1/25 (月)
[論点] 新但馬地域ビジョンの柱立て、今後の進め方 等

地域デザイン会議

1 メンバー・検討経過

- 但馬地域在住の10代～70代の一般県民（ワークショップ：3回、参加者：延べ84名）
- ワークショップの議論を踏まえ、新地域ビジョン検討委員会（上記17名）で検討

2 検討委員会の議論から見えてきた方向性

テーマ1 但馬らしさの継承と新たな魅力の創造

- 但馬の豊かな自然、但馬牛やカニなどの農産物など、但馬らしい魅力を守り次代につなぐ
- 芸術文化観光専門職大学との連携による自然と芸術の共生など、世界に誇れる新たな地域の魅力を創造する

[主な意見] 但馬らしい地域の良さは伝承すべき。若者がわくわく感じる文化・体験を取り入れる

テーマ2 新たな人との交流・つながりの実現

- 今までギャップや垣根があった人とのつながりを構築し、新たな人の交流を促す。
- 地域の魅力を発信することで地域外との新たな交流と地域への愛着を生み出す。

[主な意見] 老人と若者、外国人など今までギャップのあった交流の垣根を越えていくべき

テーマ3 多様性を受け入れ、誰でもチャレンジできる

- 誰もが自分らしく生きることができるなど、多様を受け入れ、多様を楽しむ。
- 起業や新しい社会の仕組みづくりにチャレンジでき応援してもらえる。

[主な意見] 性別や国籍に依らず居場所や出番があるなど多様性を受け入れるべき

テーマ4 暮らしやすい生活環境の充実

- 医療福祉、交通通信、子育て支援など、住む人々が暮らしやすい社会基盤が整っている。
- 自然災害に強く、健康で安心・安全に暮らすことができる。

[主な意見] 教育、医療、インフラ、働く場所などの更なる充実が暮らしやすさにつながる

1 開催実績：6回 143人参加

地域	日時	場所	対象者	日時	場所	対象者
但馬 6回	06/28	豊岡市	UIターナー者、若者、起業家等	11/26	朝来市	但馬農業経営士・女性農業士
	09/06	朝来市	UIターナー者、若者、起業家等	11/29	新温泉町	若者、女性、シニア等
	11/19	豊岡市	但馬4青年会議所	12/03	豊岡市	但馬地域未来創生会

2 意見紹介

(地域の子どもに但馬の自然を体験してほしい)

- ・但馬の自然を享受できないまま過ごしている子どもが多い。都会の子どもの方が自然に興味がある。都会の子達と一緒に体験することで自分のことに目が向いていったらよい。

(多様性と寛容性を大事にする町としてアピールしてはどうか)

- ・神戸、横浜、名古屋と住んで朝来にいるが、どうしても単一の価値観というものはある。男性とは、女性とは、学生とは、親とは、夫婦とは、こうあるべきというのは、言葉にはならないが感じるものがある。子どもが都会に出て、のびのびできる、自由を感じられる要因の一つだと思う。自治体側が、「うちは、多様性と寛容性を大切にする町です」ということを掲げれば、「ここはいろんな人に来てもらいたいと考えているんだな」と届くと思う。

(県民に愛される但馬ブランドを育てる)

- ・これから先、但馬地域の人口が急激に増えることは考えにくいだが、一定数は田舎が好きで住むことを望むと思う。そういう方達の生活が成り立つためには、但馬の農業や漁業の資源を但馬ブランドとしてまずは県民に愛されることが必要ではないか。さらに海外の富裕層向け輸出などにより儲かる農業モデルを作れないか。

(地方こそ起業の場にふさわしい)

- ・地方では若い人がいないと言われるが、新しいことをしようと考えた際に、課題はあるが競合相手がなく、やりたいと思えば事業化できるチャンスがたくさんある。
- ・起業をめざす若者がもっと増えていくような仕組みや体制が必要。地域で新しいことをやっていくぞ、家業を継いで新事業やっていくぞと、野心のある若者が増えていく地域こそ、30年後に持続可能な地域になっている。

(田舎だからこそデザインにこだわるべき)

- ・公共施設の駐車場や歩道は都会はおしゃれだが田舎はそうした部分に無頓着。田舎だからこそデザインにこだわるべき。豊かな自然におしゃれな施設があれば最強のコンテンツになる。

(但馬空港を最大活用すべき)

- ・但馬空港は現在いろいろと問題はあるが、あそこを但馬の拠点にすべき。
- ・防災対策の拠点にもなるし、人が集まる拠点、地域のつながりの拠点になればよい。

(生活と健康を守るためにも交通インフラは重要)

- ・健康を守るうえで交通インフラの問題は考えていかななくてはいけない。障害を持たれている方、高齢で運転が困難な方にとっては、現在の但馬の交通インフラでは健康を守り切れない。私達自身の生活と健康を守るためにも、その地域に合った交通の便としてどういうものが必要なのか考えていかなければいけない。

新地域ビジョン検討委員会

1 委員 ◎委員長 ○副委員長

	氏名	役職等		氏名	役職等
1	◎角野 幸博	丹波の森公苑長、関西学院大学教授	9	宮垣 良一	丹波大空の会前代表（宮垣農産）
2	○清水 夏樹	神戸大学大学院特命准教授	10	谷水 ゆかり	Tプラス・ファミリーサポート理事長
3	上甫木昭春	大阪府立大学名誉教授	11	鈴木 克哉	里地里山問題研究所代表理事
4	岸 孝明	第10期地域ビジョン委員長	12	安達 鷹矢	(株)Local PR Plan 代表取締役
5	瀧山 玲子	第10期地域ビジョン副委員長	13	足立 雄一郎	丹波市商工会青年部長
6	中川 ミミ	Be代表理事	14	竹見 聖司	丹波篠山市創造都市課長
7	土性 里花	ウズさきやま課長、丹波篠山市社協副会長	15	清水 徳幸	丹波市総合政策課長
8	構井 友洋	丹波篠山市担い手農業者連絡協議会長			—

2 開催実績

- 第1回検討委員会 7/29（水）
[論点]：新地域ビジョンの検討の進め方、丹波地域の現状、検討委員会の進め方 等
- 第2回検討委員会 12/3（木）
[論点] 新地域ビジョンの方向性（テーマ）、部会の構成・分野分け

地域デザイン会議

1 メンバー・検討経過

- 丹波地域に在住の20代～40代社会人・大学生55名
- 丹波地域の2050年の未来のアイデアを1,000個生み出し、冊子化
- ①課題と魅力、未来で起こること抽出、②～④アイデア出し、⑤まとめ 全5回

「MIRAI IDEAS 1000」
(全191ページ)



2 アイデアの出し方

- 「丹波地域の魅力や課題」×「2050年の未来で起こること」の組み合わせでアイデア出し
(分野：コミュニケーション、スローライフ、観光、教育、空き家、雇用、交通、高齢化、支援、自然、情報格差、人口減少、農業、歴史文化)

3 アイデアの例

- No.25 コミュニケーション分野 良いコミュニティ×田舎の概念が変わる → 田舎養子制度**
実の田舎（故郷）を地方に持たない人のための田舎縁組制度
- No.55 スローライフ分野 スローライフ×AI問題 → AIから逃れるスローライフ生活**
AIに管理されることを嫌う人に丹波地域を売り出す
- No.238 教育分野 教育の場がない×趣味で生きていける → キャリアの多様化による特化型教育の推進**
丹波地域の魅力を生かした農業や文化教育に特化し、プロフェッショナル人材を育成
- No.330 雇用分野 雇用問題×高度な移動 → モーニングワークの奨励**
複数の職場で働く人に丹波地域は朝の空気が気持ちいいため、午前だけ働く場所として奨励
- No.540 支援分野 支援×エンタメ → 都会・田舎合同祭り**
丹波地域の大きい祭りを都会の人と合同でより大きな祭りに
- No.608 自然分野 自然が豊か×ベーシックインカム → 全市民で森林を守ろう**
丹波で市民一人ひとりに森林を割り当て、その管理度合いに応じてボーナスを支給
- No.829 人口減少分野 人口減少×趣味で生きていける → 趣味人特区丹波**
趣味に本気になっている人だけを集めた趣味人特区として丹波地域をPR
- No.877 農業分野 農業×田舎の概念が変わる → 崇高な趣味、農業**
食物を生み出す家庭の娯楽や趣味として農業を捉える時代となる

1 開催実績：6回 87人参加

地域	日時	場所	対象者	日時	場所	対象者
丹波 6回	09/27	丹波篠山市	シ丹ハレキックオフミーティング	11/02	丹波篠山市	丹波篠山青年会議所
	10/22	丹波市	丹波青年会議所	11/23	丹波篠山市	子育て中のママ・パパ
	11/02	丹波市	農業経営士・女性農業士・青年農業士	12/19	丹波市	丹波の森大学

2 意見紹介

(丹波の人はあったかい。だから住む)

- ・自由に人が移動できるようになれば、住む場所を選ぶ基準は「どこ」ではなく「誰と」住むかが重要になる。人の魅力で人を惹きこむ。丹波の人はあったかい。困ったら助けてくれる地域。だから住みたいと思ってもらえる地域になる必要がある。

(地域に関われば50人に1人は移住)

- ・地域のおっちゃんがかっこいい。農作業だけでなく、土木作業などもばばっとできる。森の中の暮らしができるようになればと思っている。
- ・神戸大学から50人くらい実習で来る。関わりを持つと毎年1人ぐらいは移り住む人がいる。

(テクノロジーで田舎のデメリットが消滅)

- ・先進地域になれるかが問題。都会よりもいかに先に取り掛かるか。田舎の方がテクノロジーのメリットを享受できる。
- ・これから自動運転が都会を中心に導入されていくのではないか。田舎中心に5Gを整備して、自動運転を導入していくべき。病院が遠い地域は高齢者の足の問題が大きい。

(母親が安心して子育てできることが一番)

- ・あったかい丹波地域であってほしい。ママが安心して子育てできることが一番。
- ・社会の負担を全て母親が担っている。楽しみたいくても楽しめない。
- ・父親の育児参画も必要。残業をなくす声かけなど、企業も取り組む必要がある。

(兵庫は兼業)

- ・兼業をどう保ち続けるか。丹波は兼業のほうが多い。そっちに光を当てるべき。
- ・二種兼業が多いのはダメと言われるが、それが兵庫の特徴であり、県土を守れる。

(オンラインでは提供できない丹波のものづくり)

- ・コロナでオンラインが広がりつつあるが、リアルでしか提供できないものがある。例えば、丹波産のまつたけは丹波でとれるから意味がある。丹波でしかできないものづくりを考えていく必要がある。

(100歳を超えても学びたい)

- ・県立大学や、森林動物研究センターなど、退職してから色々なところで学んでいる。
- ・30年後、102歳になっても学ぶところがあるとうれしい。

(兵庫には住民とともに取り組む精神がある)

- ・兵庫は住民とともに取り組む参画の精神がある。
- ・みんなで作っていく、県民が主人公というのが大事。
- ・関係ないではなく、自分も人をどう助けられるかを考える。自分のことだけでなく、何ができるかを考えることが重要。

新地域ビジョン検討委員会

1 委員 ◎委員長 ○副委員長

	氏名	役職等		氏名	役職等
1	◎山本 聡	兵庫県立大学大学院教授	9	木下 紘二	(株)ホテルニューアワジ専務取締役
2	○澤田 佳宏	兵庫県立大学大学院准教授	10	堤 由美	AWAJI プラチナ農業女子グループ代表
3	木戸隆一郎	第10期地域ビジョン委員会副委員長	11	森 靖一	(株)フレッシュグループ代表取締役
4	堀内 照美	第10期地域ビジョン委員会委員	12	束田 裕美	元洲本市地域おこし協力隊
5	前田 若男	福良漁業協同組合組合長	13	横山 史	おのころデザイン研究所代表
6	西原 健二	洲本市企画情報部企画課長	14	安居 道彦	洲本市在宅介護支援センター加茂管理者
7	栄井 賢次	南あわじ市総務企画部ふるさと創生課長	15	原 竜也	ひょうご防災特別推進員
8	片平 吉昭	淡路市企画情報部まちづくり政策課長			—

2 開催実績

- 第1回検討委員会 6/17 (水)
[論点] 淡路島の魅力、課題、将来展望、どのようなビジョンが求められているか
- 第2回検討委員会 8/20 (木)
[論点] あわじ環境未来島構想や3市の総合計画を踏まえた30年後の地域づくりの方向性
- 第3回検討委員会 10/30 (金)
[論点] 現ビジョン策定後の人口や県民意識の推移から見る淡路島の現状と課題
- 第4回検討委員会 1/12 (火)
[論点] めざす姿の実現に向けた具体的な行動(やりたいこと)のアイデア出し

地域デザイン会議

1 メンバー・検討経過

- 淡路島内在住・在学の10代～60代 計24名
- 計3回のワークショップの開催とオンラインミーティングを通じて地域デザイン案を検討

2 地域デザイン案の方向性 (3月末取りまとめ予定)

(1) めざす姿

自然との共生、社会経済活動の適正化、新たな価値の追求を通じて本当の幸せを大切にする社会

(2) 3つの方向性

①自然との共生

将来世代のために持続可能な社会を再構築する。自然豊かな淡路島を取り戻す

- ・美しい海岸線と緑豊かな景観が物質的な豊かさとは異なる豊かさと満足をもたらす島
- ・週末だけ農漁業を営む生活ができる島、地域を丸ごと体験する滞在型の旅ができる島

②社会経済活動の適正化

地域のお金が地域内で循環する経済の仕組を構築する。誰も取り残さない社会をつくる

- ・食もエネルギーも地元産にこだわる島、食とエネルギーの循環で地域の経済が回る島
- ・地域課題の解決に取り組む人を応援する島

③新たな価値の追求

経済成長を追求するのではなく、自然との共生や伝統・伝承を大切にする価値観を育てる

- ・誰もが役割を持って働くことのできる島、住民が一緒に地域の中で支え合って暮らす島
- ・文化の伝承が生きた地域をつくるのが理解され、伝統的な文化が引き継がれていく島

(3) 変革の糸口

「先端技術の徹底活用」と「自然との共生」の組み合わせを考える。暮らしの見直しを進める

1 開催実績：5回 157人参加

地域	日時	場所	対象者	日時	場所	対象者
淡路 5回	10/06	淡路市	若者、女性、移住者等	12/02	洲本市	建設業協会
	10/26	南あわじ市	主婦グループ	12/22	淡路市	県立淡路高校
	11/09	洲本市	洲本温泉組合			—

2 意見紹介

(都会にない魅力)

- ・スローワーク、スローライフなど淡路の特色を生かして発展していく方向性が良い。
- ・都会暮らしではできない体験、例えば、農業や漁業が体験できることが強みになるはず。
- ・伝承が途切れると島が島でなくなる。神楽の伝承を通じて「和合」の精神を伝えていきたい。
- ・農業なので、父親が働く姿を子どもたちが近くで見ることができるのはよいと感じる。

(食と癒しの島)

- ・淡路島を一つの小さな国と考えたら、インバウンドで稼ぐしかない国である。
- ・都市にないものを打ち出すべき。淡路の強みは食と癒し。そこを強化するしかない。
- ・淡路と似たサイズのマルタ共和国をモデルに本格的なリゾートの島をめざしたい。
- ・和食の文化を大切に育てていく必要がある。和食の職人を養成する場所を作れないか。
- ・「癒しの島」のネックは専門人材がいないこと。例えばバリ島との人材交流ができないか。
- ・海岸が漂着ゴミだらけで汚い。本気で観光をやるのなら、市民任せの海岸清掃ではダメ。

(自然が豊かと言うけれど)

- ・結婚して淡路に来たが、とんでもないところに来たと思った。夜が真っ暗。公園もない。自然が豊かと言うが、ほったらかしの自然があるだけ。子どもは家の中でゲームしている。
- ・慶野松原は子どもの頃は遠浅だったのに、今は近深で、海に入るのも怖い。

(ポテンシャルを生かす)

- ・世界一の吊り橋をもっと観光に活用すべき。バンジージャンプやジップラインができないか。すぐにできそうなのは橋の下を歩けるようにすること。できれば主塔にも登れるように。
- ・鳴門大橋に続いて明石海峡大橋にも自転車道をとれば更に面白い。
- ・淡路はドローン適地。空飛ぶ車の実証もできる。国内のドローンメーカーを誘致したい。

(活性化のボトルネック)

- ・昔から島で暮らしている人と、新しい人のあつれきを解かないと本当の活性化は難しい。
- ・道路と情報基盤の問題がある。この機会を捉えて投資しないと、人が逃げていく。
- ・淡路に企業立地が少ない原因の一つは明石海峡大橋の交通費。
- ・情報通信網の強化が必要。山間部では未だにネットが繋がらない場所がある。高台で景色が良いが、情報網が整っていない。それでは人は来ない。
- ・ロードバイクに乗っているが、アワイチは怖いので走らない。道が狭く、信号もない。島外から来る人も住民も安全に走行できる道路を作らないといけない。

(暮らし続けられる島に)

- ・既存のインフラが老朽化するのは目に見えている。どこかで取捨選択する必要がある。
- ・高齢者が車に乗らなくなったら住み続けられない。コンパクト化はどうしても必要だ。